

切りがあり、抽象的記憶も三歳すぎに始めてなされるようになります。注意力の發達からみると、遊びに對して注意を持續出来るかどうかについても四歳頃に飛躍的發達が見られます。積木、クレヨン、ねんど細工という創作活動、物を作る事については、もともと材料が固形的であると四歳頃から始まり、その他は五歳頃からまとまつて來ます。知的方面から思考力は五歳頃から物の定義が出来る事から見えて一段の發達が見られます。子供の考え方は幼兒的特色が七歳頃まで続きます。

情緒の發達から見ますと、二歳から五歳までの間にいろいろの情緒の發達が形づくられるといわれています。

次に子供の社會性については、三歳過ると友達と積極的に遊びたがります。一人遊びのへつてくる傾向は三歳から四歳にいちぢるしいのであります。又大人との關係に於いていわゆる反抗期は二歳から四歳の間であります。次に基本的習慣については二歳から五歳の間に一通りの事が身につけられます。いろ／＼の方面の事をざつと申し上げましたが、これに對する實驗的材料は時間がないので略す事に致します。

これをまとめて考えますと二歳は子供の生活形態の上で一つの區切りとなります。三歳は記憶、社會性で一つの區切りとなるという事も若干なすける事であり、その他精神發達からみて、二歳から四歳までが一つの區切りとなり、四歳以上が又一つの區切りとなります。もう一つ殘る問題は六歳以上七歳代までは幼兒的精神構造が續くという事が云われ

ます。制度の上からは幼稚園の年長の子と小學校一年とを一緒にするという問題も出てきます。又描畫に於ける意圖が五歳に出てきます。基本的習慣情緒的發達に於ては五歳が區切りとなります。

さて結論としましては、どこで區切るかははつきりと申し上げられませんが、凡その發達の事實をかんたんにまとめて申し上げただけであります。

司會者——三木、吉見兩先生は個人差が主であるという御意見のようでした。それに對して、山下先生は、それはそうだが一般兒童として年齢により區分というものがあると云われました。醫學的方面からも大いに又検討していただきます。齋藤さんどうぞ願います。

○醫學的立場から

養育研究所 齋藤 文 雄

齋藤氏——教育という言葉がドイツ語のエルチーフング、即ち子供の心やからだからいゝものを引出すという意味からすれば、教育は生れたその日から始めるべきだと考えます。個人的幼兒を對象と考えれば年令的なことはありませんが、一定の場所に集める集團的な扱いは何時からやつてよいか、その方面について今日の議題があるのだと思います。結論を言えば、普通に育つてゐる子供なら醫學的立場から見れば三歳以上がよいと思ひます。その理由は、先ず身體的發育の立

場からみると、身長、體重は小さい時程育ちがよい。その育ち方の大きさを言えば、始は大きく、次にぐつと下つて、十歳から又上る。その體重の増加度が一應おちつく始まりが三歳であります。心臓の内容量即ち血液をどの位含むかということになる、五十以上の數を示さないとレザード・パーワールが、即ち一つの力に對する心臓の餘力がないのであります、これが満二歳で五十になります。又、酸素の消費量が百臺になり、活動力を示すのが二年から三年の間であります。胸かくは、生れたての子供は前後經と横經が全く同じであり、それが横にのびて、だ圓形となります。前後經と横經との差が三年ではマイナス〇・四、四年ではプラス〇・二、四年以上は全部プラスであります。こゝに一つの境を見出すことが出来ます。又肋骨は胸骨に對して、赤ん坊のは直角に ついていますが、これが大人のように斜に下りて來る完全な時期は三年であります。呼吸器系統、循環器系統のとのうのもこの頃で、赤ん坊の腹式呼吸から胸腹式呼吸へ、更に胸式呼吸になるのであります。消化器系から言つと、日本では離乳がおそいで、満二年まではその爲の營養障害が残り、體力が出るのが満三歳であります。又、乳房の出揃うのも三年で、これも何かの參考になりましょう。運動の發達の上で重視すべきは、足の發達で、二歳までは筋肉と關節との結びつきがよわいのであります。赤ん坊は扁平足であり、その土ふまずの脂肪がとれて大人と同じになるのが三歳であります。筋肉の問題でありますか、先に山下先生も話されました通

り、小學校の二二年までは幼児の中に入れるべきで、私もこれに賛成いたします。體の格好でもお氣つきと思ひますが、小學校の二二年はいわゆるポットベリーでおなか大きいものです。二年生と三年生とくらべるとはつきりと差があります。腹筋、内臓の緊張がはつきり出てくるのは、小學校二年の終でありませうから、これまでは寧ろ幼児に入れるべきではないでしょうか。又背すいについて見ると、乳兒のは棒のやうに眞直で彈力性、柔軟性があります。これに生理的彎曲が出てくるのは、立ち始めて間もなくではあります、それはつきりしてくるのはやはり三年であります。

睡眠については先刻平井先生からもお話があつたことと思ひますが、三年半を越さないと十二時間以内の睡眠になりません。活動に對する睡眠が十二時間以上になると集團的扱いに無理が出てきます。

内分泌腺の上から、又病氣、營養の上からみても三年後に落着くと思ひます。普通一般の小兒科のわけ方から言へば、新生兒一週間、乳兒一年、幼兒一年以後六年までということになつていますが、内分泌腺の活動期は満二歳で一區切りつきます。その後、三歳から七歳までの間に變動期を求めめる事が出来ます。更に十歳以上に再活動期があります。又、腦下垂體、胸腺、甲狀腺は子供の發達に關係があります。胸腺は生れてしばらくの間は目方が減り、満二年たつて生れた時の目方に恢復する。満十歳までは活動し、その後生殖腺が發達するのでこれにバトンをわたします。新陳代謝に關係ある甲

狀腺の發達は、二年たつてからでなければ活動の速度はおそいのであります。腦下垂體は四―五歳で最も強力なホルモンを出します。

即ち發育、内容の充實、力の量、内分泌腺などの點を考慮しても今までのべてきましたやうに三年がよいと思われま

す。結論として、集團的に保育さんが子供を扱うのは、三年以上がよくなるかと思われま

す。いろいろ御異論もあ

りのことと思ひますが、それは後程お叱りをうけることにいたしたく存じます。

司會者——先程シンポジウムは火花をちらして言い争うのがよいと言いましたが、これは下等ないゝ方でありました。(笑聲) 心理學、醫學と夫々科學的な立場からの研究は一致する筈であります。若しそうでなければ我々は體の幼稚園と心の幼稚園とを作らなければならぬということになります。一應落着きましたので安心致しました。それらをつくるために次に教育學的立場から城戸先生に御話をお願い致しまし

○教育的立場から

城戸幡太郎

城戸氏——教育學的立場から私の考えをお話してみましよう。齋藤先生が今話されましたように、教育年令とは一つの

計畫をもつて、即ち一つのカリキュラムを持つて教育を始め得る年令と考えます。

簡単に私の結論を申しますと、計畫的教育するには目的と方法とはつきりさせなければならぬ。目的には二つあり、その一つは民主主義的教育、機會均等であり、もう一つは普通教育の義務化であります。この點よりみると、就学前の幼児については、今までの様に經濟的、社會的條件で差別するのはいけない。託兒所と幼稚園は一つにすべきであります。と言つてもいわゆる行政的一元化ではなく、三木さんと同じに、内容の充實と普及とを圖ればよいという意味であります。第二としての普通教育の義務化について考へますと、普通教育の意義、何時から始めるのが適當かなどということについてもいろいろ御意見がおりと思ひます。私は、普通教育というのは、近代社會人として、共通に持たなければならぬ國民の教養と考えます。そうすると、近代社會人の性格とはどういふ性格か、私は結局近世のデモクラシーの土臺の下に發達した生産主義と、それに伴つた個人主義に對して發達した社會主義の二つの性格であると思ふ。教育はこの近代社會に生活出來る人をつくらねばならない。近代的人間のこの性格を要約すれば、第一に、働く人間であります。ルネッサンス時代はホモサピエンス即ち考へる人間であつた。現在はホモバーレルであります。第二に、他人と協力して働く人間であります。生産の人間であります。第三に、人類の福祉を増進する爲に働く、文化的人間であります。近代人の特